

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

氷見地区(第3期)

令和6年10月

富山県氷見市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価					フォローアップに よる確定値	計測時期	フォローアップ時 点での達成 度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある 場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定 の別	目標達成度	1年以内の 達成見込み					理由	改善策の方向性	
指標1	市民満足度	%	82	87	74	確定 ● 見込み	×	あり なし	●	—	—	—	—	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	今後の定住意向を改善させる迄には至らなかったが、まちなかにおいて、公共空地を活用した施設整備や居住誘導事業等を実施したことで、住みやすさは向上した。
指標2	居住誘導区域内の人口密度	人/ha	31	29	29	確定 ● 見込み	×	あり なし	●	28	R6年4月	×	自然減に加え、1月の能登半島地震による社会減により、見込み値を下回った。	☒ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	自然減を主要因として、人口密度の低下に歯止めをかける迄には至らなかったが、まちなか居住誘導事業等を活用した宅地開発により、一部で人口増の地区もある。
指標3	国道415号(まんがロード)の歩行者数	人/日	373	750	474	確定 ● 見込み	△	あり なし	●	—	—	—	—	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	歩行者数を大きく増加させる迄には至らなかったが、漫画キャラクターモニュメントや壁画の設置等の他、市民によるまちなか店舗等の改修、魅力情報の発信により、国道415号の歩行者数はコロナ禍を経て着実に回復傾向にある。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップに よる確定値	計測時期	フォローアップ時 点での達成 度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある 場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の 達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	住みやすさに関する市民満足度	%	72		81	確定 ● 見込み			—	—		—	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	まちなかにおいて、公共空地を活用した施設整備等が進められたほか、居住・出店を誘導・支援する事業をあわせて行ったことで、まちなか暮らしの満足度が向上した。
その他の数値指標2	市の補助制度利用等による年間移住者数	人	94		230	確定 ● 見込み			199	R6年4月		1月の能登半島地震の影響で見込み値を下回った。	☒ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	芸術文化館や漫画キャラクターを活用した施設等の整備の他、移住に係る各種補助制度充実・PR、本市の情報発信活動を積み重ねてきたことで、本市の魅力が向上し、移住者の増加につながった。
その他の数値指標3	まちなかイベント開催数	回/年	10		13	確定 ● 見込み			12	R6年4月		1月の能登半島地震の影響で、開催見込みであったイベントが中止となり、見込み値を下回った。	☒ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	芸術文化館や漫画キャラクター壁画等の整備のほか、まちなかにおける市民活動の活発化により、まちなかに賑わいが創出され、まちなかイベント開催数の増加につながった。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4ー③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5ー③に記載した 今後のまちづくり方策（事項）		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	氷見市の顔にふさわしい中心市街地の景観づくり	能登半島地震の影響による中心市街地の空き家が増加を防ぐため、空き家優良物件化支援事業補助金を拡充。	空き家物件所有者の優良物件化を支援し、空き家の利活用を促進させ、まちなかの空き家の増加抑制を図ることが可能となった。	建築物・屋外広告物等の景観誘導等により、魅力あるまちの顔となる中心市街地の景観づくりが必要。
	子育て世帯が住みやすい居住環境の形成	子育て世帯の空き家取得及び住宅リフォームを推進するため、氷見市住宅リフォーム支援補助金を拡充。	これまで移住者を対象としていた補助金を子育て世帯や新婚世帯にまで拡充して、子育て世帯の住みやすい住環境の支援を図ることが可能となった。	親子のふれあいや交流を育む集いの場づくり、良質な住宅地や生活利便施設の整備誘導等により、子育て世帯が住みやすい居住環境の形成が必要。
	誰もが快適に散策できる環境づくり	氷見駅にキャラクター観光案内板を設置。	氷見駅からの観光施設やまんがロードの案内が分かりやすくなり、快適に散策が可能となった。	歩行者サインやベンチ・トイレ等の休憩施設、緑陰等の整備充実により、誰もが快適に散策できる環境づくりが必要。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	公共空地の利活用促進	能登半島地震の影響を鑑みた事業計画の見直し。	公共空地の利活用の再検討を実施した。	旧市役所跡地、市民会館敷地等の公共空地の利活用により、公共施設の集約・再編が必要。
	安定した雇用の創出	まちなか店舗兼住宅物件化事業補助金を創設。	店舗部分と住居部分との機能分離にかかる改装を支援し、利用可能な店舗テナントの増加を図ることが可能となった。	本市の特性を活かした企業誘致や起業・創業支援、地場産業の強化等により、魅力ある雇用機会の創出が必要。
	まちなかの回遊性向上	藤子不二雄 ^㉔ 先生の生誕90周年を記念して、藤子不二雄 ^㉔ 氏の関連のイベントを実施。	まんがワールドまつりを2日間にかけて実施した結果、まちなかを回遊する観光客数が増加した。2日間で県内外から3,000人が参加した。	「氷見まんが広場」や「ひみ発見館」等、まんがロード沿いにマグネット効果が見込める施設を整備が必要。

事後評価シート 添付様式5ー③から転記

様式4ー④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
—	—	—	—

都市再生整備計画(第9回変更)

ひ み ち く だい き
氷見地区(第3期)

と や ま け ん ひ み し
富山県 氷見市

令和6年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☒
都市再生整備計画事業	☐
まちなかウォークابل推進事業	☐

目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	富山県	市町村名	氷見市	地区名	氷見地区(第3期)	面積	355	ha
計画期間	令和	元	年度	～	令和	5	年度	
					交付期間	令和	元	年度
						令和	5	年度

目標

大目標:「氷見の人々の暮らしを豊かにし、氷見に訪れる人々を温かく迎え、それぞれの活動がまちなかで重なり合う」まちづくり

目標1 市の発展を牽引するにぎわいのまちづくり

目標2 多世代において魅力があるまちなか居住環境の形成

目標3 市内外の交流と活力創造の核となるまちの顔づくり

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。

先人が長い歴史の中で築き上げてきた市街地を基本としながら、原則、市街地をこれ以上拡大することなく、市街地の外側に広がる農地等の自然環境の保全を図りながら、人口減少・少子高齢化社会の中でも、機能性・安全性・利便性の高い持続可能な都市構造を目指す。
市街地については、商業・医療・福祉・文化など都市的生活の利便性を享受できるよう、サービス水準の維持に努めながら、一定の人口密度の維持を目指す。
また、市街地の空間資源(公共空地等)を活用して魅力ある都市機能の誘導を図り、子育て世代が安心して快適に暮らせる居住空間の形成を目指す。
これと並行して、少子高齢化社会の中において、過度に車に依存することなく、車を利用できない高齢者等にとっても、徒歩や公共交通を利用し市内を円滑に移動できるよう、公共交通の利便性向上を図り、安心・快適に暮らし続けられる持続可能な都市構造を目指す。

まちづくりの経緯及び現況

本地区は、古くから交通や物流の要衝地として栄え、氷見の中心市街地として発展を遂げてきた。しかし、郊外型大型店の進出や生活基盤整備の遅れ等により、定住人口が減少傾向を示し、また、国道415号沿いの中心商店街には空店舗や移転後の空き地が目立ち、かつての賑わいが失われつつあった。市では、氷見の鮮魚や点在する集客拠点の活用により、観光誘客に取り組んできたが、観光客は立ち寄り型の利用がほとんどで、市街地への波及効果が少ない現状にあった。
このため、まちなかの定住促進と来訪者の増加による賑わい創出を目指し、都市再生整備計画事業等により、街路整備やポケットパークの整備をはじめ、潮風ギャラリー、ひみ番屋街、総湯等、多岐に渡る整備を実施し、観光客の増加や賑わい創出に一定の効果がみられた。
しかしながら、その後も市街地の居住人口の減少や高齢化、若年層の郊外流出に歯止めがかからず、さらに、市庁舎や市民病院、朝日丘小学校が移転したことに伴い、公共遊休地が存在し、中心市街地の空洞化が顕著となってきた。また、ひみ番屋街への来館者の市街地への波及も限定的なものであった。本市の流域山間部と市街地は、古くから相互補完関係にあり、交流により本市の都市空間が形成されてきた。中でも市街地は、本市全域の活性化を牽引する役割を担っており、今後も本市が将来に向けて持続的に発展していくためには、都市の成長を支える市街地の再生・活性化が必要となっていた。
こうしたなか、平成27年に、「氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、基本目標の一つに「時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」を掲げ、暮らし続けられる地域社会を実現する都市空間設計として様々な施策を位置づけている。
こうした動向や本市の市街地の現状を踏まえ、本市を持続的に発展させる方向性や人口減少社会にあっても豊かに暮らせるライフスタイルを展望した市域全体の中長期の都市空間戦略を描く必要性から、平成29年度に市街地グランドデザインを策定した。グランドデザインでは、4つの公共空地の活用の方向性を含む都市デザインや都市マネジメントの基本的な考え方を取りまとめており、まちなか市街地の基本方針として、既存の資源とアクセス性を踏まえた「まちなか形成軸」を位置づけ、賑わいと魅力づくりの骨格を形成するとしている。

課題

1 中心市街地の魅力形成と都市活力の向上

氷見市の顔にふさわしい魅力ある景観形成をはじめ、商業・業務・交流等の多様な機能の誘導・集積や快適な居住環境の形成、交通の利便性向上等により、中心部としての魅力・活力向上を推進する必要がある。

2 「まちなか定住」につながる住まい・子育て支援環境の形成や雇用の創出、生活利便性の向上

医療・福祉・子育て機能の充実や定住を促す市街地の魅力向上、新産業の創出、利便性の高い都市機能の誘導・集約化等を推進する必要がある。

3 まちなかへの誘客や回遊性の向上

氷見市に訪れる観光客を市街地中心部まで呼び込み、回遊させるためのしなやかで仕組みづくりが必要である。

将来ビジョン(中長期)

○第8次氷見市総合計画(平成24年度～平成33年度)

商店街等の個店の魅力向上や本市固有の歴史や文化を生かしたまちなみの整備等により、ゆったりと散策を楽しめる場所、にぎわいがあり楽しく買い物のできる場所、人が安心して住み・交流できる場所としての中心市街地の活性化を図る。

○氷見市都市計画マスタープラン(平成16年～平成37年)

中心商業地は、商業施設、娯楽、保健、福祉、教育、文化などの都市的な機能が沿道に立地し、住環境と調和した地域環境を形成していくべき地域と位置付ける。

○氷見まちなかグランドデザイン(平成30年～)

7つの流域沿いに形成された集落と相互補完関係にある交通結節点として、氷見市全域の活力を牽引するエンジンとなる「まちなか市街地」と位置付ける。

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。								
都市機能配置の考え方 「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりにより、持続可能な都市構造を実現するため、多くの人々が日常的に利用する都市機能施設は、徒歩や公共交通でアクセス可能な拠点エリアへの立地を維持・誘導する。ただし、既存の施設を短期間で強制的に集約するのではなく、都市の魅力・利便性の向上や居住人口の増加に併せて、少しずつ再編や集約を進めていく。 公共施設については、多くの市民や学識経験者の方々の意見を踏まえて策定した「氷見まちなかグランドデザイン」や「氷見市公共施設再編計画」に基づき、公共空地等を活用しながら、施設の集約・再編を図る。								
目標を定量化する指標								
指 標		単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
市民満足度		%	「市民意識調査」において、「現在の場所に住み続けたかどうか」と感じる人の割合	ひみ文化交流プラザの整備や、玄関口である氷見駅周辺の整備をすることにより、中心市街地の魅力形成と都市活力の向上を行うことで満足度の向上を図る。	82	H29	87	R5
居住誘導区域内の人口密度		人/ha	立地適正化計画で設定された居住誘導区域内の人口密度	まちなか定住につながる整備や支援を行い、居住誘導区域内の人口密度を維持する。	32	H30	32	R5
国道415号(まんがロード)の歩行者数		人/日	氷見駅から市民病院跡地への歩行者数	まんがをテーマとしたまちなか回遊拠点の形成と歩いて楽しい商店街作りを行い、歩行者数を増加を図る。	373	H28	750	R5

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
計画区域の整備方針	1. 中心市街地の魅力形成と都市活力の向上 ・交通条件を活かした広域的利用圏と新文化施設の建替えを踏まえた、文化交流・創造の拠点の形成 ・日常的な利用や観光客の利用を踏まえた、まちの玄関口となる空間の形成 ・沿道の土地活用の促進や景観づくり、緑化等により、シンボルロードとしての魅力と活力のある街なみの形成	【基幹事業】 ・ひみ文化交流プラザ周辺ストリートファニチャー整備(高質空間形成施設) ・氷見駅前広場整備(地域生活基盤) ・氷見駅朝日線道路照明整備(高質空間形成施設) ・ひみ文化交流プラザ整備(高次都市施設) ・避難所等の非常用電源施設(地域生活基盤) 【提案事業】 ・ひみ文化交流プラザ周辺街灯機能向上(地域創造支援事業) ・地域住民避難所整備(地域創造支援事業)
	2. 「まちなか定住」につながる住まい・子育て支援環境の形成や雇用の創出、生活利便性の向上 ・豊かな自然・文教環境に恵まれた保育・幼児教育施設のある子育て支援の拠点の形成 ・図書館、博物館と連携した、市民交流と誘客を推進する水とみどりの憩い空間を形成 ・居住誘導区域内の低未利用地(空き家空き地)の利用に向けた行政の能動的な働きかけの実施 ・居住誘導区域内の空き家や空き店舗を有効に活用し、居住誘導を行うことで、地域コミュニティ維持及び再生	【基幹事業】 ・ひみ発見館広場整備(地域生活基盤) 【提案事業】 ・まちなか居住誘導事業(地域創造支援事業) ・空き家利活用促進事業(地域創造支援事業) ・子ども発達支援施設整備(地域創造支援事業)
	3. まちなかへの誘客や回遊性の向上 ・観光客をまちなかに誘い込む、まんがをテーマとしたまちなか回遊拠点の形成 ・ひみ番屋街の集客を商店街方面に引き寄せるため、まんがのまちづくりを行い、歩いて楽しい商店街の魅力づくりの実施 ・使いやすいまちなか交通や歩きやすい市街地環境とするためまちなか交通システムと回遊動線の確保	【基幹事業】 ・漫画キャラクターモニュメント設置(高質空間形成施設) ・キャラクター案内板設置(地域生活基盤施設) 【提案事業】 ・まんがキャラクター壁画(地域創造支援事業)
その他		

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

...A

...B

合計(A+B)	4,094
---------	-------

[illegible]